

E-17 除湿機の使用実態に関する研究

新潟大教育 ○大内佳子 五十嵐由利子

目的 冬季高湿な裏日本一帯で、除湿機はかなり普及していると思われる。前回（第28回日本家政学会総会）新潟地方における湿害について調査を行ない、除湿機についても使用している家庭60戸に対して調査を行なった。今回は先回の調査をふまえて、対象を長岡市内とし、除湿機の普及率・購入目的・使用実態を明らかにすることを目的とした。また先回の調査から除湿機を寝具の乾燥に使用している家庭が多かったので、ふとん乾燥機の普及度、寝具の乾燥方法についても調査を行なった。

方法 長岡市内A高校とB高校、2校の女子生徒の家庭46戸を対象とした。除湿機については所有している家庭のみ、寝具の乾燥については全戸46戸に調査用紙を配布した。調査は1978年2月に行なった。

結果 除湿機の所有率は42.5%でその普及度は高かった。購入目的は前回と同様ふとん・ベットがしけるといのが一番高かったが、一方、窓の結露がひどい・壁や天井に結露するといった水痛が視覚に訴えるものが比較的多い。また使用満足度をみると、建具・寝具といった『もの』の保護のために購入した人は満足度が高いが、室内の乾燥のため購入した人は満足度が低かった。ふとん乾燥機の普及率は24.3%であった。除湿機とふとん乾燥機、両方所有している家庭は37戸でそのうち併用している家庭が26戸あった。併用していない家庭（11戸）と、除湿機はなくてふとん乾燥機のみ所有している家庭（29戸）においてふとん乾燥機使用時に高湿となり、湿害の原因になると考えられる。